



かわら版

NO. 19

多度地区小中一貫校整備事業

開校までに子どもたちをつなぐ『4小プロジェクト』開催

11月24日（水）、多度地区の4つの小学校の2年生（複式学級のため一部3年生が参加）が多度中学校の体育館に集まり、地元スポーツクラブ『ヴィアティン三重』のご協力を得てサッカー交流を行いました。



挨拶を真剣に聞いている子どもたち



グループごとに笑顔で交流

感染対策を講じた上で、4つの小学校の混合チームを作り、体ほぐしの運動で心と体の緊張を徐々にほぐし、最後はミニゲームをしました。大きなけがもなく楽しいひと時を過ごしました。

（子どもたちの様子はヴィアティン三重のホームページでご覧いただけます。）

サッカーは、見ていると難しそうだったけど、やってみると楽しかったです。嬉しかったことは、保育園の時、同じだった子といっぱい話せたし、コーチたちがコツややり方を教えてくれたことです。最初ドリブルが上手にできなかったけど、コツを教えてもらったら上手にできました。試合では、こけた時、他の学校の子がだいじょうぶ？と聞いてくれたのでうれしかったです。（多度東小児童）

ヴィアティンの人たちとサッカーをしました。試合もしました。みんな強かったけど、1回勝てました。保育園の友達とも会えて嬉しかったです。4小プロジェクトでいろんな子と友達になれて嬉しかったです。また、4小で違うことを一緒にしたいです。（多度北小児童）



児童の感想より

サッカーは、1年生の時、遊びでやっていたぐらいなので不安でしたが、途中からすごく楽しくなってきました。そして、サッカーの試合で、私たちのチームは1回も負けませんでした。幼稚園の時に友達だった友達にも会えました。ボール交換の時に新しいお友達ができました。お友達が増えて嬉しいです。（多度青葉小児童）

とても楽しただけでなく、他の学校の子たちと仲良くてきて、とても嬉しかった。ヴィアティンの先生もとても優しく教えてくれて、とてもサッカーが好きになった。技も楽しく教えてくれてできなかったのができるようになってとても嬉しかったし、楽しかった。保育園で一緒だった子たちと会えたのも嬉しかったけど、保育園が一緒じゃない子とも仲良くなれて嬉しかった。（多度中小児童）

『 第2回ワークショップ 』 開催報告

11月14日（日）、多度まちづくり拠点施設（第4教室）において、新しくできる多度地区小中一貫校の学校施設に関する「第2回ワークショップ」を開催（参加者 17名）しました。今回は「地域の人から見た“学校施設・設備の役割”について」をテーマに、その中でも特に、学校施設における「地域交流室」に対するご意見やご要望をお聞かせいただきました。それらのご意見等については、今後、委託する設計業者へ伝えていきます。各班から発表いただいた主なご意見・内容は次のとおりです。

Aグループ

- 地域交流室は、地域の方にとっての使いやすさ、集まりやすさを考慮すると、「公民館」のような機能が必要ではないか。
- 登下校の見守り時に、保護者やサポーターが集まる場所として使用できるとよいのでは。
- 学校内の図書室の横に地域交流室を設置し、地域の方も本を借りられたり、子どもたちの作品展示があったりすると使いやすいのでは。
- 学童保育との連携を図るほか、放課後には、子どもたちの活動拠点になるとよい。



Bグループ

- 「地域交流室」といっても、地域の方々に来てもらうのは、実際、難しいと思う。離れた地区から来るには移動が大変。「(学校から)地域活動へ出向くための拠点」として考えるとよいのでは。
- 必要な機能として、PTA活動や各種委員会の準備や資料印刷などに利用できるとよい。地域との交流を図るための情報システムや地域交流の「人材バンク」としての機能も持たせられないか。
- 地域交流室は、高齢者と話ができたり、学童とのつながりが図られたりする場所になるとよいのでは。地域の農産物を提供することもできる。
- 地域交流活動のゲストティーチャーの準備・休憩場所としても使えるとよい。農作業等の活動で使う「道具入れ」としても利用できるように、外部から直接入れる動線が欲しい。



Cグループ

- 地域交流室では、PTA 活動のほか、自治会役員の方が学校イベントに協力する際などに打合せを行う場所として利用できることよい。地域の方々から教えてもらい、子どもたちが学べる地域交流が図られることよいと思う。
- 学校へ来てくれた地域の方が迷わないように玄関の近くに設置することよいのではないか。
- スクールバスもあり、登下校サポーターの協力が一層必要になると見込まれるため、スクールバスの乗降場所の近くにあると、打合せなどにも使えてよいと思う。設置する場所は限定的に考えず、活動内容や機能に応じて、柔軟に検討していけるとよいのではないか。



前回の振り返り より

会の冒頭では、“前回の振り返り”として、前回のワークショップで頂いたご意見・ご質問について、次の2点をお伝えしました。

- ① バリアフリーや動線への配慮といった“子どもたちの安全”へのご意見については、今後の施設設計業者の募集要項の中で反映していきます。
- ② ご質問の多かった『プールに対する考え方』については、「近年は、猛暑等により屋外での水泳授業が思うようにできていない状況です。新しい学校では、移動手段等も考慮した上で、民間インストラクターによる専門的な指導を受けられ、天候に左右されない快適な授業が行えるように、現在、導入可能性調査が行われている総合運動公園の新しい屋内温水プールを活用する方向性で検討している。」との説明をしました。

参加者の皆様からは様々なご意見を頂きました。今後、水泳授業の時間をしっかりと確保し、多度の子も達が確かな泳力を身に付けられるような体制を検討していきます。



『第2回 地域連携部会』開催 11月29日(金)

地域連携部会では、今年度、『子どもたちの通学』について協議しています。第2回では、事務局の提案をもとに、「通学方法について」、「学年の区切りについて」、「徒歩通学の距離について」話し合いを進めました。特に、徒歩通学の距離については、国の目安（片道4km）や市内他校区の状況（片道3km）も参考に、多度の子どもたちの姿を思い浮かべながら、熱心に話し合っていました。各グループで話し合われた概要は、以下の通りです。

Aグループ

1年生から6年生までの、スクールバスと徒歩との境界線について、市の提案を地図上に当てはめ、どのようにとらえるかという協議を行った。

- 境界線をひかなければいけないのは共通認識できている。
- 3kmという距離で線引きができるのか、個別の状況や実際に歩く道の状況などを検証していかなければいけない。
- 地域・保護者に納得の得られやすい状況を探っていくことが必要。



Bグループ

1年生から6年生までの、徒歩通学の区域について協議を行った。

- 3kmという線引きについては、桑名市全体の状況もあり納得はできるが、境目になる地域については慎重に検討する必要がある。
- 1年生の児童にとっては、長距離を歩くのが大変かもしれない。
- スクールバスの運行についても、安全な運行ルートがあるのか、時間差が出ないようなルートの検討が重要。

